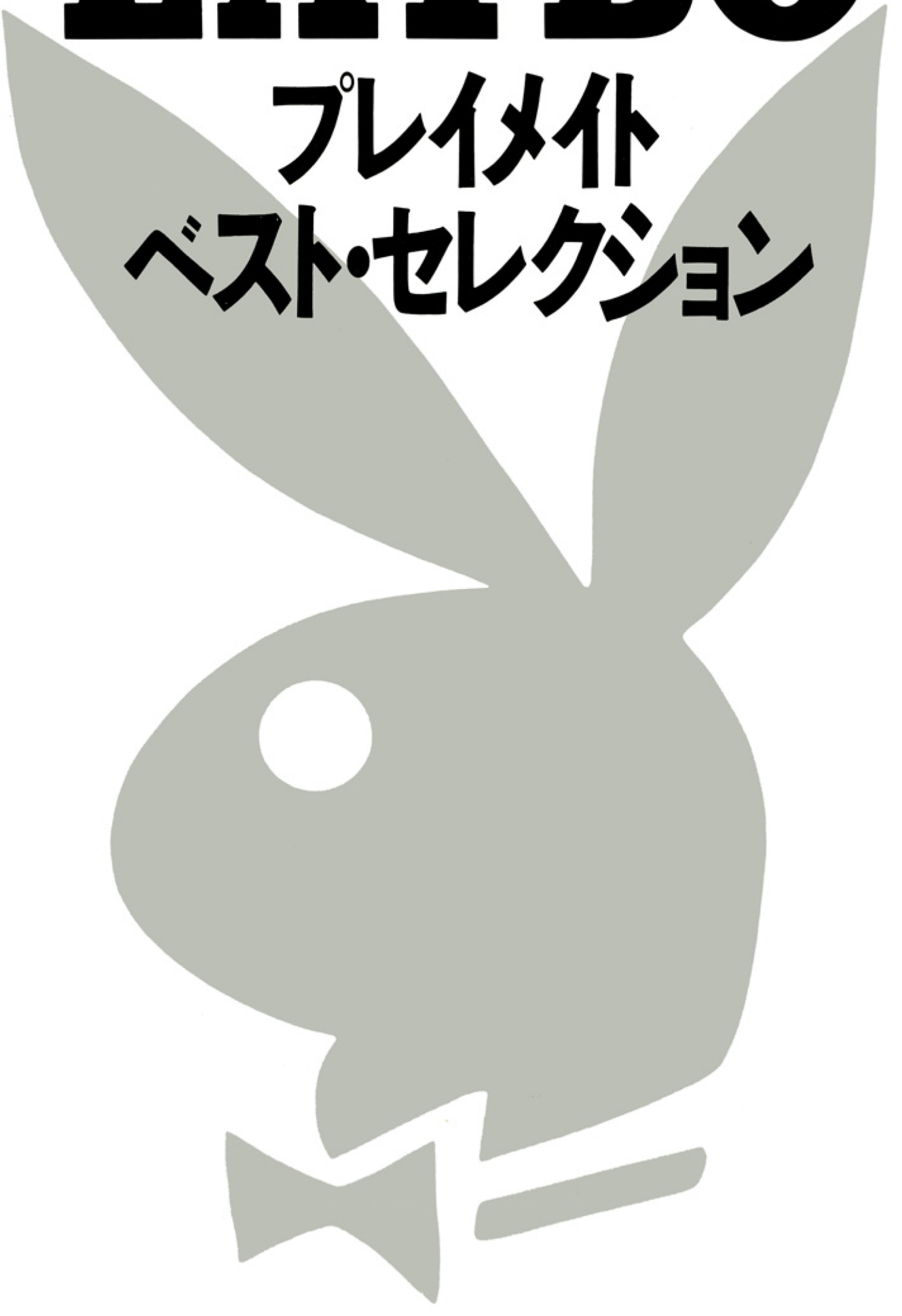
PLAYBOY

プレイメイト
ベスト・セレクション



Sherry Arnett

PLAYBOY

PLAYMATES BEST SELECTION

プレイメイト・ベスト・セレクション

集英社

MESSAGE from PLAYMATE

きみの横顔も素敵だけど、こっちを向いて、シェリー。カンパリ・ソーダは嫌いかな？　外は雨だよ

プレイメイトNo.1のシェリーから、メッセージが届いたぞ。シェリーは21歳。真夜中に食べるアイスクリーム、嵐、お湯のあふれているお風呂、これが彼女の好きなものだ。趣味は、水上スキー、料理、旅行。

「日本に行って、あなたたちに会えるの、シェリーとっても楽しみにしてる。日本の男の人って、エネルギッシュで仕事熱心なイメージ。日本の文化も学びたいわ。あたしはファッションやデザインに興味があるから、最新のジャパニーズ・ファッションの傾向を見たいし、さまざまなところに行って、いろんな人と友達になりたいの。どっかであたしを見かけたら、声をかけてね。会える日を楽しみにしてるわ。愛をこめて」

どうだ、いい子だろう。クルマだってパーソナリティのある古いクルマが好きだというシェリー。なかなかだよ。ウン、なかなかだ。

シェリー・アーネット
Sherry Arnett

おいでよ、シェリー、ぜんぶ脱ぎ捨てて駆けておいで
爪をたてながら、きみの唇でゆっくりつつんでおくれ

MESSAGE
from
PLAYMATE

MESSAGE
from
PLAYMATE
電話が鳴っている。無視することにしよう
そしてシェリー、だからさ、その胸でさ

1964年イリノイ州生まれ。シェリーの夢はデザイナーとしてファッション界で働くこと。嫌いなタイプの男性は新しい挑戦に対して消極的な人。「だらしなくて、もの忘れの激しい人も頭にきちゃうわ。ありのままのあたしを受け入れてくれる人が理想のタイプ」と彼女は言う。Bust85 Waist55 Hips85 身長163cm 体重47kg

69 Ruth Guerri ルース・ゲリー

72 Christina Ferguson クリスティーナ・ファーガスン

73 Justine Greiner ジャスティン・グリーナー

78 Dona Speir ドナ・スペアー

80 Karen Velez カレン・ヴェレス

82 Melinda Mays メリンダ・メイズ

85 Pamela Saunders パメラ・サンダース

88 Carol Ficatier キャロル・フィカティエール

90 CHAPTER2 PLAYMATES' FILE

92 ショート・ストーリー カクテル・ナプキンメッセージ

98 CHAPTER3 男たちの愛するもの——その三 「天使」について

100 Joan Bennett ジョアン・ベネット

105 Donna Smith ドナ・スミス

110 Susie Scott スージー・スコット

113 Roberta Vasquez ロバータ・ヴァスケス

117 Kim Evenson キム・イーブンソン

122 Venice Kong ヴェニス・コング

124 Carina Persson カリーナ・パーソン

127 Tricia Lange トリシア・ラング

130 Cherie Witter シェリー・ウィッター

133 Cher Butler シェール・バトラー

136 Veronica Gamba ヴェロニカ・ガンバ

138 Suzi Schott スージー・ショット

140 CHAPTER3 PLAYMATES' FILE

PLAYBOY

PLAYMATES BEST SELECTION

CONTENTS

32 Lesa Pedriana リサ・ペドリアーナ

48 CHAPTER 1 PLAYMATES' FILE

35 Terry Nihen テリー・ニーエン

50 CHAPTER 2 男たちの愛するもの——その二 「彫像」について

4 Sherry Arnett シェリー・アーネット

20 Hope Marie Carlton ホープ・マリー・カールトン

38 Debora Johnson デビー・ジョンソン

52 Devin De Vasquez デビン・デ・ヴァスケス

12 CHAPTER 1 男たちの愛するもの——その一 「人形」について

24 Liz Stewart リズ・スチュワート

40 Cindy Brooks シンディ・ブルックス

57 Lonny Chin ロニー・チン

14 Tracy Vaccaro トレイシー・バッカロ

25 Jolanda Egger ヨランダ・エッガー

43 Cynthia Brimhall シンシア・ブリムホール

60 Barbara Edwards バーバラ・エドワーズ

17 Patty Duffek パティ・デュフェック

28 Kathy Shower キャシー・シャワー

46 Alana Soares アラナ・ソアレス

65 Penny Baker ペニー・ベーカー

アートディレクター／赤塚弘隆　レイアウト／アトム★スタジオ　編集協力／矢田部実

をばんとならし「人形になって」と命じた瞬間、彼女はその場で「人形」にならなければなりません。そしてわたしは柔らかいソファや毛足の長いカーペットの上にうつ伏せになってたおれている彼女を両手で抱えてベッドに運んでいくのです。

「お前は人形なのだからわたしがどんなことをしても凝っとしていなければならないんだよ」わたしは真っ白なシーツに手と足を伸ばして横たわっている彼女にそう囁きかけます。もちろん、ほんとうはそんなことを言う必要などありません。人形の頭の中には藁くずしか詰まっていないのですから。ああ、人形の傍にいっしょにいるのはなんと心地よいことでしょう。人形は決して反抗したりしません。人形は泣いたり、駄々をこねたり、意味のないことをしゃべりつづけてわたしをうんざりさせたりもしません。ただ、黙って熟と甘くて濃密な匂いを撒き散らしながら横たわっているのです。わたしは彼女にむかって屈みこみ、顔を近づけ静かに呟きます。「この香水は何だろう、この野卑な匂いは」

いちばん上のボタンまできちんとかけられた薄いブラウスの張り切った胸の辺りが、まるで生き物のように微かに震え、彼女の握りしめた掌に少しずつ汗が滲んでくるのがわかります。「駄目だよ、動いちゃ。わたしがいいと言うまでは」わたしはそう言って彼女を焦らしているのです。固く閉じられた長い睫毛が痙攣するみたいに、神経質そうにぴくぴくしはじめ、ずり上がったスカートからはみ出た光を反射するほど滑らかな二つの膝頭が息をするようにくっついたり離れたりするのがわかります。わたしは従順なわたしの「人形」を抱き締めるために、いま、手をのばします。

男たちの愛するもの——その一
「人形」について

高橋源一郎

CHAPTER 1

「煖炉の上にフランス人形が立っていて、スカートの中からのびた白い二本の脚は、わざとらしくきっちり合わされている」谷川俊太郎

男たちは——わたしは——彼女を愛します。何故なら彼女は人形だからです。部屋の外にいる時、彼女は何をしているのでしょう。わたしはよく知りません。わたしが知っているのは部屋の中でわたしといっしょにいる時の彼女だけです。わたしといる時、彼女は人形です。わたしたちはそう決めました。それはわたしにとって——男たちにとって——いちばん素敵なことです。男たちは心の中では誰でもそう思っているのに、決して口にだしたりはしません。そんなことを言うと、嫉妬や羨望で身を焦がしている人々がよってたかってわたしたちを排除しようとするからです。しかし、かれらもここまでやって来ることはできません。ここはわたしと彼女以外誰も知らない場所なのですから。

では、「人形」とは何でしょう。それは生命をもたないのに温かく、ぐったりして意志のない、衣服につつまれた一人の女のことです。この部屋にはいったなら、わたしが大きく手

Tracy Vaccaro

トレイシー・バッカロ

Patty Duffek
パティ・デュフェック

「あんた、わたしみたいな女といっぱい寝た？」
「もちろん」ぼくは答えた。もちろん、嘘だった

ホープ・マリー・カールトン
Hope Marie Carlton

Liz Stewart

リズ・スチュワート

Jolanda Egger

ヨランダ・エッガー

19.99
16.90
29.
9.98

キャシー・シャワー

Kathy Shower

Lesa Pedriana

リサ・ペドリアーナ

バスルームからシャワーの
音と彼女のハミングが聞こ
え、ぼくは眠りにおちる

Terry Nihen テリー・ニーエン

Debora Johnson
デビー・ジョンソン

Cindy Brooks
シンディ・ブルックス

シンシア・ブリムホール

Cynthia Brimhall

Alana Soares
アラナ・ソアレス

Liz Stewart
リズ・スチュワート

1961年カリフォルニア州生まれ。彼女の夢はトップ・ファッション・カメラマンになってプレイメイトの写真を撮ること。理想の男性は、魅力的でロマンチックな男性で、エネルギッシュにビジネスにも遊びにも取り組むたくましい人だそうだ。Bust87 Waist57 Hips 85 身長167㎝体重52㎏

Tracy Vaccaro
トレイシー・バッカロ

1962年カリフォルニア州生まれ。バレー、スキー、陸上競技が得意な彼女は、残念ながら人妻。理想の男性はもちろんハズ。「好きな男性には、彼がわたしにどんなに愛され、必要とされているかを、わかってもらいたいと思うわ。恋って盲目なのね」Bust89 Waist61 Hips 89 身長173㎝体重54㎏

Jolanda Egger
ヨランダ・エッガー

1960年スイス生まれ。J・クラベル著『将軍』が愛読書。彼女がひそかに抱いている夢は、ボンド・ガールとして映画に出ること。それに、創造的な新しい冒険映画のプロデュースと監督をすること、もちろん主演もヨランダ。頑固な人が大嫌い。Bust94 Waist61 Hips 94 身長173㎝体重57㎏

Patty Duffek
パティ・デュフェック

1963年カリフォルニア州生まれ。彼女がとてもがまんできないことは、皮肉、退屈、押しつけがましい人たち、汚い灰皿。「陽差しの明るい海辺で、音楽を聴きながらチョコレート・ムースやラズベリーを食べてるときが最高。エアロビクスも好き」Bust90 Waist57 Hips 80 身長162㎝体重48㎏

Kathy Shower
キャシー・シャワー

1953年オハイオ州生まれ。愛と笑いを与えてくれる男性と一緒に寝ること、その人と目覚めること、それに香水風呂、それが彼女の好きなこと。「すてきな本を持ってベッドにもぐり込む時間もとてもいいわ。不潔で傲慢で正論ばかり言う人は嫌い」Bust87 Waist60 Hips 87 身長172㎝体重54㎏

Hope Marie Carlton
ホープ・マリー・カールトン

1966年ニューヨーク州生まれ。「出会った人みんなにほほえみをもたらすこと、成功していつも幸福であること、それがあたしの最大の望み」と言う彼女は乗馬が趣味。好きな世紀は19世紀。なぜなら「馬と馬車と、そして人類の進歩の時代だから」Bust90 Waist55 Hips 80 身長167㎝体重50㎏

PLAYMATES' FILE

Cindy Brooks
シンディ・ブルックス

1951年ペンシルバニア州生まれ。望みを大きくもち、知的で立派な体格、注意力があって愉快な男性が彼女の理想。「自由で平和な世界で、すべてを分かちあえる理想の男性とめぐりあえたらいいなと思っているの。かならず、実現してみせるわ」
Bust85 Waist57 Hips 85 身長171㎝体重51㎏

Lesa Pedriana
リサ・ペドリアーナ

1962年ミルウォーキー生まれ。好きな言葉を六つあげるとすれば「男性。ロマンス。愛。動物。想像力豊かな人。独創的な服」と言うリサは好きなアーティストとして、マッドネス、ベルリン、デュラン・デュランをあげた。騒音と自信ない人が嫌い。
Bust85 Waist55 Hips 80 身長162㎝体重48㎏

Cynthia Brimhall
シンシア・ブリムホール

1964年ユタ州生まれ。「いつか狂おしいほどの恋をして、彼と大きな白い牧場の家に住み、結婚して7人の男の子を産んで、主人と子供たちが牧場で男の仕事をしているのを、木陰の芝生から見ていることがあたしの夢。あたしは故郷が大好きなの」
Bust90 Waist65 Hips 90 身長171㎝体重56㎏

Terry Nihen
テリー・ニーエン

1960年マサチューセッツ州生まれ。「どんな生活をしていてもユーモアのセンスだけは失いたくない」テリーは地に足がついている幸せな人たちが好きだ。理想の夕べは「愛する人と月の下でピクニックをすること」。ニセモノと自分勝手な人が嫌い。
Bust87 Waist57 Hips 82 身長177㎝体重45㎏

Alana Soares
アラナ・ソアレス

1964年カリフォルニア州生まれ。日系人の血を引くアラナ。好きなものは、日没を見ること、友だち、積極的でうじうじしない人、バラの花、モダン・バレー、旅行、そして優等生のバッジ。嫌いなものは、宿題、目覚まし時計、煙草、他人の噂話。
Bust85 Waist55 Hips 80 身長157㎝体重46㎏

Debora Johnson
デビー・ジョンソン

1958年カリフォルニア州生まれ。感動した映画は『ファンタジア』『オズの魔法使い』『卒業』。デビーはできるだけ多くの世界を旅行して、いろいろなことを経験したいと思っている。バラ、ダイヤモンド、夏の夜、シャンペン、イチゴが大好き。
Bust87 Waist52 Hips 85 身長162㎝体重46㎏

PLAYMATES' FILE

も柔らかい。弾力がある。滑らか。なめし皮。
蜜をたっぷり塗りつけたような緻密な皮膚。
これは肩。これは二の腕。これは鎖骨。これ
は脇の下。熱い砂。果実の匂い。滲んでくる
汗。これは乳房。これは広い、押すとどこま
でも沈んでゆく腹部。これは腰の骨。これは
強い太股。逃げようとする。ためらう。つか
まえる。これは脂肪を沃(ゆた)かに含んだ尻。強く
つかむ。触れる。ゆっくりと、すべらせる。
戻る。往復する。これはふくらはぎ。これは
贅沢で華奢(きゃしゃ)な足の裏。そしてわたしの手は、
目は、「彫像」のいちばん敏感なところへたど
りつきます。生温か、。、ゃ熱い。蒸される。
焚かれる。発つ。　　に動かす。ゆっく
り。繊細に。とぎれとぎれに。撫でられる。
埋める。注意深く。
　わたしはわたしの彫像に接吻します。

（高橋源一郎）

CHAPTER 2

男たちの愛するもの——その二
「彫像」について

「彫像をわが妻、ミラディと呼び、大理石像であるのもかまわず、抱いて接吻しました。彫像が毎晩、生命あるもののように、彼のために動いてくれるなどといい出しました」プロスペル・メリメ

やがて衣服の下にかくされていたものが露にされます。それは「彫像」です。男にとって——わたしにとって——彫像ほど愛しいものはありません。「人形」を前にしていた時、わたしは子供でした。やんちゃにそして独裁者のように我儘に命令し、くたっとして動かない手足をもって動かしてやり、唇を耳もとまで近づけて話しかけ、スカートのしわをのばして塵埃をていねいにはらってやりました。わたしの願いは奇麗に飾り立てられた彼女を、わたしの部屋の最上の場所に陳列し、そっと抱きしめることでした。「彫像」を前にした時、もうわたしは「子供」ではありません。わたしは美術館を訪れ、静まりかえったその館内を焼きつくすような好奇心を抱えて歩いていく初心な若いアーティストです。お目あての「彫像」の前で歩を停めたわたしの咽喉の奥から思わず賛嘆の声が迸りでます。そしてわたしは「彫像」の周りを、憑かれたようにぐるぐる廻りはじめます。それはわたしの知っているもっとも複雑でもっとも美しい、カーヴの無限の組み合わせでできています。何十回、何百回、どれほど見つづけても、見飽きることはありません。小さい円と大きい円、楕円、球、紡錘、それぞれの輪郭がほんのわずかな角度のちがいで蠢くように、混じり合い、一つになり、また分解します。気がつくと、もうわたしは、数居を越えています。「彫像」はわたしの手の届くところにあります。構うものですか、ここは公共の美術館ではなく、わたしの「美術館」であり、彼女はわたしだけの「彫像」なのですから。この瞬間、わたしの手は「目」にかわり、次々と、せわしなく視線を移動させながら新鮮な感動をわたしに報告しはじめます。これは髪。柔らかい、細い、しなやか。オーデコロン。ヴァニラの匂い。くすぐったい。これは額。これは瞼。これは鼻。これは薄紅い唇。これは尖った顎。これは咽喉。青い固さ。で

Devin De Vasquez

デビン・デ・ヴァスケス

ベッドが生き物のように大きな音を
立て、波打ち、唄をうたいはじめた

Lonny Chin
ロニー・チン

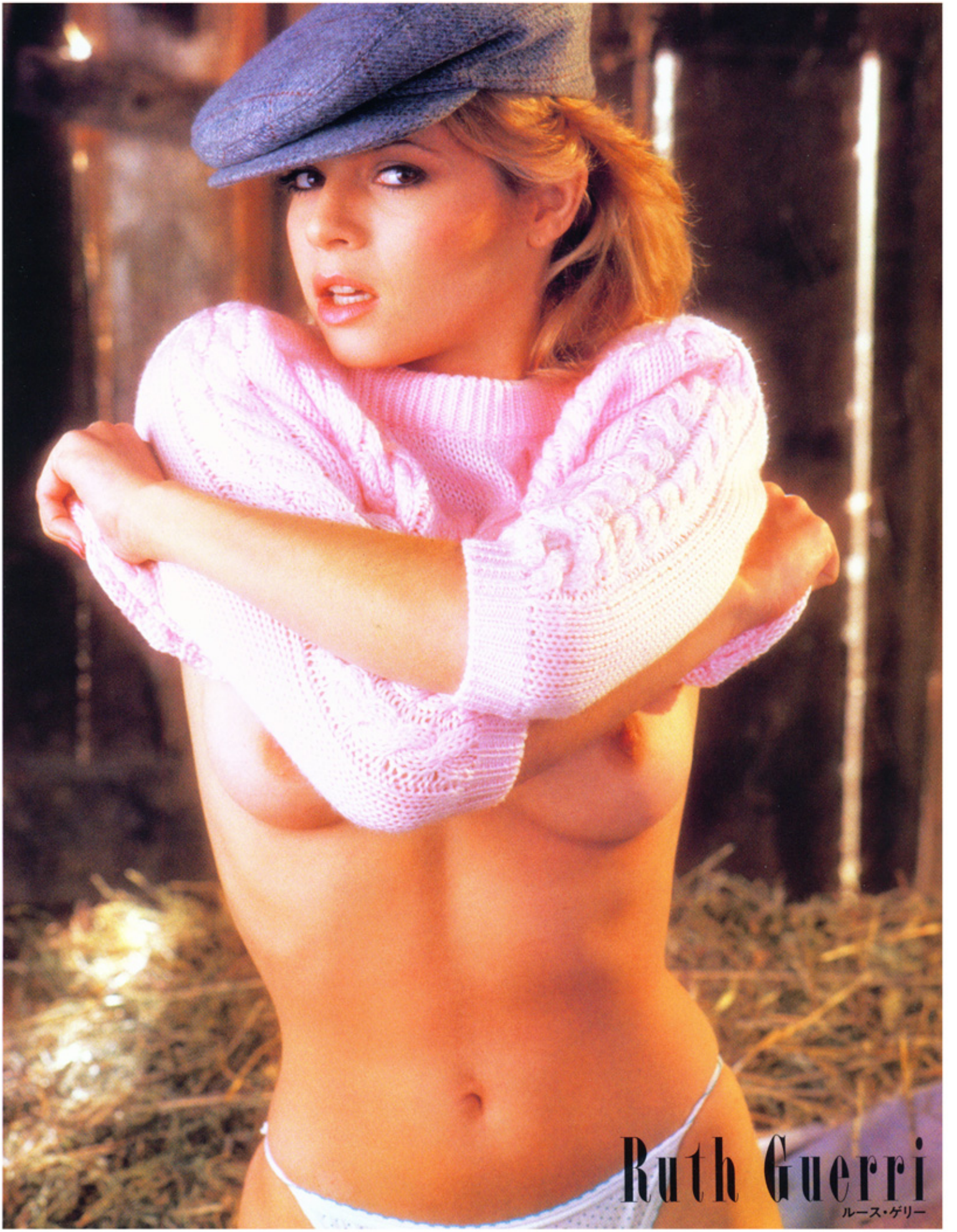
Barbara Edwards

バーバラ・エドワーズ

レコードをかける。ベシー・スミスの声が流れ始めた。「うつろなベッドは惨めに暗い思いを誘う」

彼女は言う「キスが先？　それともビール？」
ぼくが好きなものはきみの汗をかいた背中さ

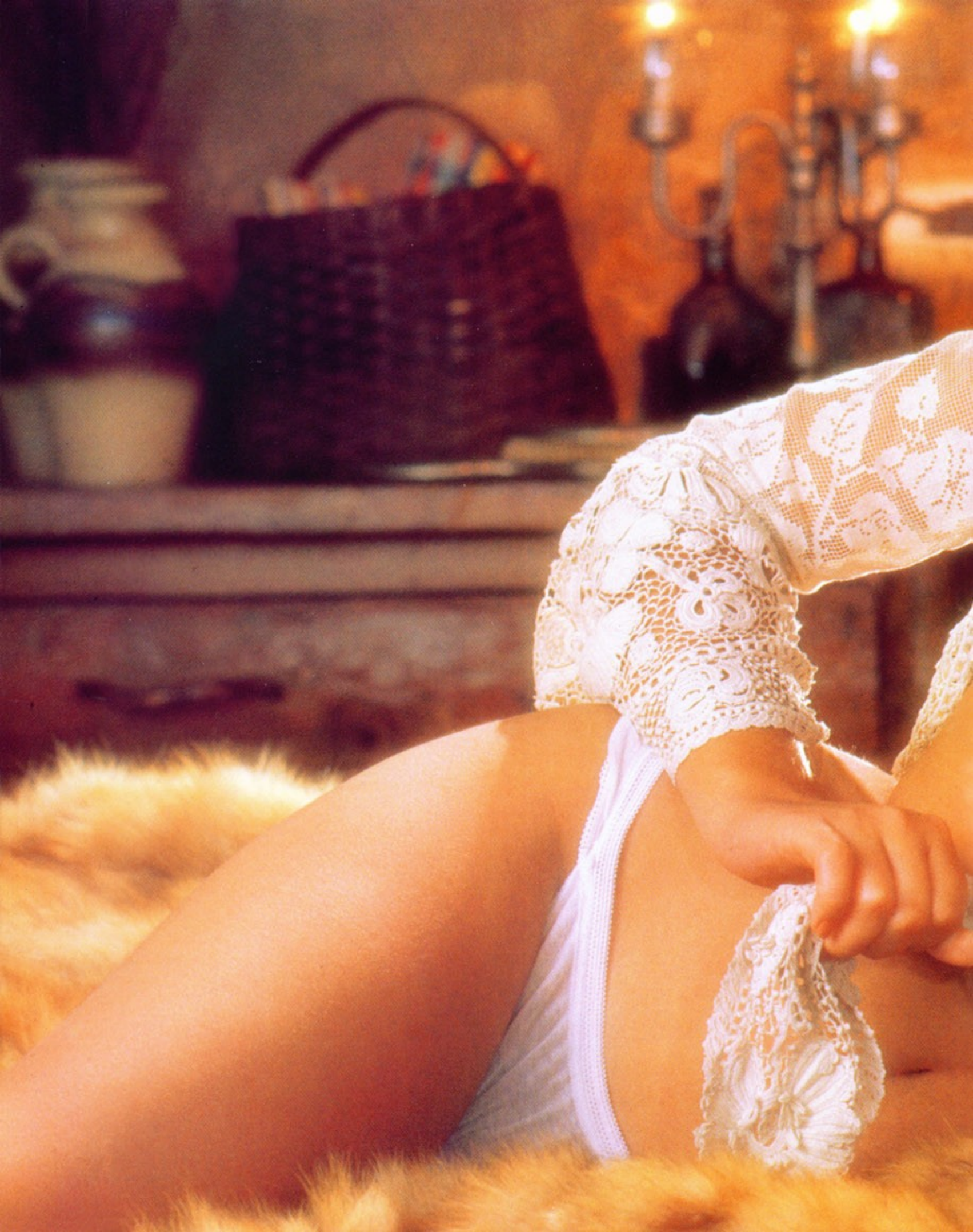
Penny Baker ペニー・ベーカー


Ruth Guerri
ルース・ゲリー

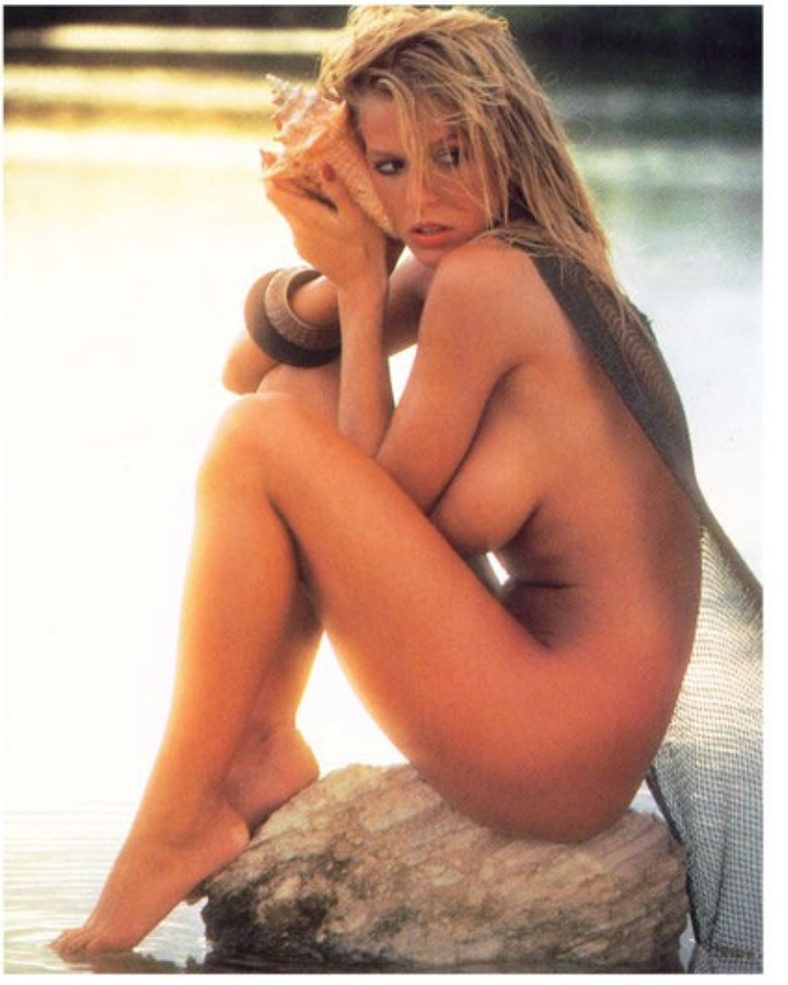
Christina Ferguson

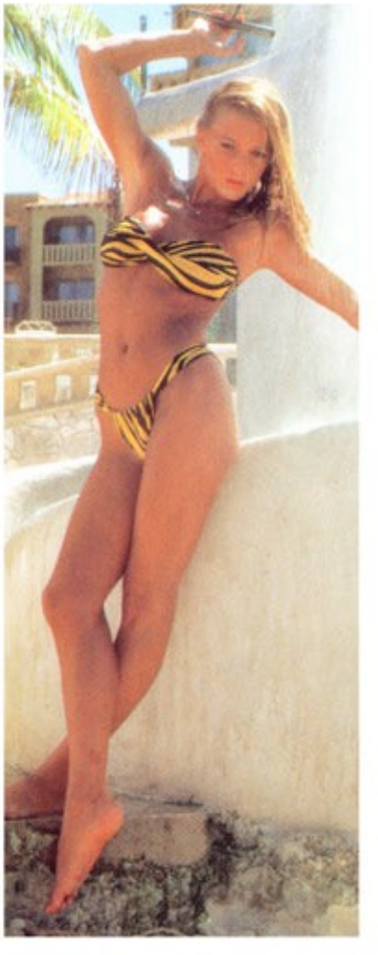
クリスティーナ・ファーガスン

Justine Greiner
ジャスティン・グリーナー
さっきまでワインを嘗めていたぼくの唇が、
今度は彼女のつんとした乳首にふれるのだ



Dona Speir ドナ・スペアー





Karen Velez
カレン・ヴェレス

Melinda Mays メリンダ・メイズ

Pamela Saunders パメラ・サンダース

Carol Ficatier

キャロル・フィカティエール

Penny Baker

ペニー・ベーカー

1965年ニューヨーク州生まれ。嫌いなものは、大口をたたく人、スカッシュ、屈辱。麦畑の中が好きな場所と言うペニーは秘密の夢として「プロの放浪者になって、世界中をまわることね」と言う。ぜひとも、日本にやって来てもらいたいものだ。Bust87 Waist55 Hips 85 身長172㎝体重50㎏

Devin De Vasquez

デビン・デ・ヴァスケス

1963年ルイジアナ州生まれ。彼女の理想の男性は「あたたかくて繊細でユーモアがあり、がっちりした体つきで仕事ができる知的紳士」。もっとも嫌いなタイプは「横柄で安っぽい男性ね」。二人で入るバブル・バス、イチゴ、シャンペンが大好きだ。Bust85 Waist55 Hips 85 身長167㎝体重50㎏

Ruth Guerri

ルース・ゲリー

1958年ミズーリ州生まれ。エドガー・アラン・ポー、ジョン・アービングの本が好きなルース。「自分の選んだ仕事を通じて、本当の幸福を得ること」が彼女の望み。「カリブ海の島なんかに行って、自然の中で1年間ぐらい自由に暮らしてみたいわ」Bust89 Waist56 Hips 86 身長165㎝体重49㎏

Lonny Chin

ロニー・チン

1960年イギリス生まれ。ロニーは人生や人間について考えることが好き。重要なことは、ナゼ？と何にでも疑問をもつことだとロニーは言う。「ある人は3時間あったら読書をするかもしれないけれど、あたしはただ座ってじっと考えごとするの」Bust90 Waist55 Hips 87 身長167㎝体重53㎏

Christina Ferguson

クリスティーナ・ファーガスン

1964年アリゾナ州生まれ。ビジネス・ウーマンとして経済的に自立し、成功したいと彼女は思っている。チーズケーキ、チョコレート、アイスクリーム、パスタと、なぜか好きなものはふとりやすいものばかり。バッハ、買物、旅行、風呂が好き。Bust85 Waist55 Hips 83 身長165㎝体重48㎏

Barbara Edwards

バーバラ・エドワーズ

1960年ニュー・メキシコ州生まれ。「才能あるアーティスト兼女優になる夢をかなえて、そのうえで世界の飢えている子供たちの助けになること」がバーバラの望み。絵を描くことと旅行、それにバレーなどの舞台を観ることやテニスなどが好き。Bust87 Waist58 Hips 85 身長167㎝体重47㎏

PLAYMATES' FILE

Melinda Mays
メリンダ・メイズ

1962年ジョージア州生まれ。「正直言ってセックス好きよ。でも、自分から望むときでなきゃ、ぜったいにイヤ。先のことはよくわからない。たとえどんな人生を歩むことになっても、頑張って成功したい。途中であきらめることだけはイヤね」
Bust89 Waist58 Hips 85 身長163㎝体重46㎏

Justine Greiner
ジャスティン・グリーナー

1963年マサチューセッツ州生まれ。男の人の香水と暴風雨が大好き。ディナーの席でブタみたいに食べる人は大嫌い。感動した映画はメル・ブルックスの『サイレント・ムービー』『キャット・ピープル』『48時間』。ハイチがお気に入りの場所。
Bust90 Waist62 Hips 87 身長172㎝体重54㎏

Pamela Saunders
パメラ・サンダース

1963年フロリダ州生まれ。パメラは赤と紫色、満月、ロマンチックな男性、泡風呂に興奮するという。してみたいことは、飛行機の中でセックスすること。「10年後のあたしは、自分のレストランで働いていて、動物のいる農場に家族と住んでいるはず」BWHはご想像におまかせ。身長163㎝体重50㎏

Dona Speir
ドナ・スペアー

1964年カリフォルニア州生まれ。「現実から離れて1週間くらい好きな男性と暮らしたいわ」と言うドナの理想の男性は、自分で事業をしていて、彼女に合わせて休みを取ってくれる人。水上スキー、ローラースケートが得意。愛読書は『星の王子さま』
Bust92 Waist60 Hips 87 身長170㎝体重53㎏

Carol Ficatier
キャロル・フィカティエール

1958年フランス生まれ。「精神的に成長しつづけられるなら、仕事の種類なんて関係ないの」。キャロルの嫌いなことは、残虐、怠惰、シカゴの冬、早起き、ゴミを捨てること、決めつける人。イタリアのヴェニスが彼女の一番お気に入りの場所。
Bust87 Waist59 Hips 87 身長168㎝体重53㎏

Karen Velez
カレン・ヴェレス

1961年ニューヨーク生まれ。カレンの嫌いなものは、請求書、二日酔い、シワと玉ネギ。趣味はセーリング、乗馬、陶器を集めること。好きなものは、太平洋と海岸、日光浴。嫌いな人は不誠実で利己的な人。望みは経済的精神的に自立すること。
Bust92 Waist57 Hips 87 身長182㎝体重53㎏

PLAYMATES' FILE

カクテル・ナプキン・メッセージ

ピーター・ネルソン　作
伊達一行　訳
イラスト　中村成二

Cocktail Napkin Message

ぼくはこと女性に恋するときには、まず5分間だけ考えてからすることにしていた。だが、今回、彼女の場合に限って、どうやら例外をもうけなければいけないようだ。どういうわけだか、説明できる人がいたら、聞きたいものだ。

慎重でクールなぼくが、彼女をひとめ見たときから結婚したくなったのだ。これは異常なことで、ぼく自身、戸惑ってしまった。

彼女のために草原に美しい家を建て、いずれ世界的に有名になるであろうぼくの子供を彼女に産んでほしいと切実に願ったのだ。それだけじゃない。彼女の両親のためなら、ぼくの腎臓のひとつぐらい提供してもいいとき

え考えたのだ。ぼくはジブラルタルの岩にこの歯で彼女の肖像を刻むことだってしよう。彼女の香りのついたランジェリーに近づくためなら、洗濯機の壁をよじ登り、カミソリの刃のいっぱいついた乾燥機の中に身を投げ込むこともできただろう。

彼女の瞳は、さながら北の湖。唇はキューピッドのり。そこからこぼれる頬笑みは、ボールベアリングさえもバターのように溶かしてしまう。金色の鳥のようなまばゆいばかりのブロンド。エレガントな首すじ。ぞくぞくさせる素晴らしい胸のふくらみ。おそらく、その部分はちっちゃくて愛らしく、そこで粉をひけるくらいしまっているに違いない。彼女の素敵な肢にくらべれば、バレリーナの肢でさえ七面鳥の肢に見えてくる。彼女から漂う雰囲気には、なにかしら貴族的なものが感じられるのだ。王女のような気品と、ジプシー・ダンサーのような魅力。

問題は何もなかったのか？　いや、ひとつだけあった。彼女にはいまいましいことに連れが、つまりデートの相手がいたのだ。

つまらない男だった。少なくとも、ぼくにはそう見えた。平面的な漫画の世界から抜け出て来たようなマネキンを思わせる男だ。生き返ったゾンビーのように空虚な男。身なりや態度からして、医者か弁護士といったところだろう。外にはジャガーをとめていて、素敵な一軒家を持っているかもしれない。もちろん、ぼくの観察にひがみとねたみが混じっていることぐらい承知しているけど。

いいだろう、彼は確かにハンサムだ。たぶん。しかし、そんなことはささいなことだ。誓ってもいい、彼女がぼくの方を見て、ぼくたちの眼が合ったとき、ぼくは信じられないような超常現象を体験したのだ。彼女はその神秘的な眼でESPのメッセージを送ってきたのだ。それは鳴りわたるベルのように、はっきりぼくに伝わってきた。

助けて！

ぼくは彼女がそう言うのを耳にしたのだ。

その声は悲鳴のような調子でもなければ、怯えを含んだ響きでもなかった。それは確かに愛の声だった。

その瞬間、ぼくは奇怪な心持ちになった。ぼくは合理主義を信奉する20世紀人のひとりだったが、ぼくの理性が愛と非合理によって、またたく間に崩れ、熱っぽい心もとない気持ちになったのだ。まさに彼女のキューピッドの弓のような唇から、恋の矢が発せられてぼくの胸に突き刺さったのだ。こういう事態になって、ぼくはかかわりを拒否する人間ではない。だが、恋は人を聾病と大胆の間に宙吊りにする。

ぼくはバーテンダーに、彼女が誰なのか知ってるかと訊いた。どことなくニヒルな感じのバーテンダーは、ぼくが信用できる人物かどうか思案するようにぼくに一べつをくれてから、こくりと頷いてみせた。いいバーテンダーというものは、じょうずにシェーカーを振るだけじゃなくて、ときには恋のアドバイザーになり、ときには仲介者になってくれる。そして、彼の場合はいいバーテンダーのサンプルのようなものだった。

「彼女はウィットニーって名前だったはずだよ」と彼は教えてくれた。

ウィットニー。彼女にふさわしい名前だとぼくは思った。彼女はモデルだろうか、女優だろうか。いや、待てよ。あんなに美しい女性が現実に存在するのだろうか。

「幻じゃないだろうな」ぼくは本気で眼をこすった。

「自分の眼を信用することだよ」バーテンダーはぼくに笑いかけた。「彼女は確かこの近くのオフィスで働いているはずだ」

ぼくは彼女と知り合いたいと望んだ。何か方法があるはずだ。ぼくは手持ちのカードを見た。もっともらしいコピーを書き、言葉をあやつって人に物を買わせるようにしむけるのがぼくの仕事だ。言葉の魔術師、もしくは言葉のサギ師といったところだ。ぼくの武器はこれしかない。ぼくはどうしても必要だという場合にしか腰を上げない主義だが、しかし今はまさにそのときなのだ。

ぼくはペンを取り、カクテル・ナプキンを眼の前に置いた。正攻法じゃいけない。ぼくの心が熱く重い分だけ、言葉は軽く洒脱でなければいけない。そして、充分彼女をリラックスさせてから、ずばりと切り出すことだ。ぼくはカクテル・ナプキンの上に走り書きをした。なかなかいいデキだ。ぼくはウェイトレスを呼ぶと、彼女の連れに気づかれないように、そっと彼女に渡すように言って、そのメモを持って行かせた。それにはこう書いていた。

君は気づいていないかもしれないが、君と一緒の男は、クローンである。驚いても、あやしまれるようなことをしてはいけない。ぼくは未来からやって来た者で、こういうことには馴れている。君がこれからすべきことは、ひとつだけだ。10分後に、トイレの外でぼくと会うことだ。

ぼくは幼児期惑星群のために働いているもので、他にFBI、CIA、ハーバード同窓会にも籍を置き、それからTV番組の「ラブ・ボート」などでも活躍している。

君の友人より

ウェイトレスは恋を解する人物で、こころよくメッセンジャーになってくれた。彼女はもう1枚の何も書いていないナプキンの下にぼくのメモを隠し、メモのはしの方だけちょっぴり見えるようにしてくれた。

心臓が高鳴った。彼女は笑ってくれるだろうか。彼女は連れのオタンコナスに話すだろうか。やつは怒ってぼくを殴りつけにやって来るだろうか。彼は大きくて強い馬、ペルシエロンのような軀をしている。もっとも、オツムの方はペルシェロンほどのかしこさもないように思われたが。

ぼくは小柄だし、おまけにひざがオシャカになっている。だが、ぼくは彼がどんなに暴力的な男だったとしても、けして逃げたいと思わなかった。少しもおそれていなかったのだ。ぼくは自分の生命と運命を彼女に賭けていた。それほどぼくの思いは切迫していたし、また、彼女を信じていたのだ。

何気なさそうに彼女はメモを読んでいた。そして、読み終えると、クスッと笑った。何がそんなにおかしいのかとヒョットコ男が彼女に尋ねた。なんでもないわ、と言うのが彼女の唇の動きでわかった。

言うことなしだ。これ以上のデキはない。第一段階がパスできたと思うと、ぼくは胸につかえていたものがひとつ取り除かれた気分になった。

「首を突っ込むようでなんだけど、かまわなかったら教えてくれないか」とバーテンダーが訊いた。「あれに何と書いたんだね」

ぼくは彼にメモの内容を話してやった。

「カクテル・ナプキンの上にメモをする。これはアートだよ」ぼくはことが首尾よく運んだので機嫌よくなり、口もなめらかになった。

「ぼくは5歳のときからこれをやってるのさ。このやり方について本を書くべきだろうね。

Cocktail Napkin Message

ベストセラー間違いなしだよ」

ぼくはおおいに自慢した。いいんじゃないかな。ぼくの恋はうまくいきそうだし、ちょっとぐらい得意になっても。それにバーテンダーたちもぼくのそういう言葉を期待してるんだろうし。もしぼくが上機嫌でなかったら、連中はがっかりするさ。

「これを見なよ」ぼくは第二段階に移った。積み重なったナプキンの山からまた1枚取って、ぼくはこう書いた。

実を言うと、ぼくはこの近くの有名大学に通う医学生です。さきほどから、あなたのボーイフレンドが鼠蹊腺ペストに感染していることが気がかりでなりません。もしよろしければ、ぼくはよろこんであなたが感染していないかどうか看てさしあげましょう。これは誘惑しているのではありません。あくまでも人道的立場から、そう申し上げているのです。5分後に外で会いましょう。

友人より

「悪くないね」とバーテンダーが言った。「試してごらんよ」

彼は薄笑いを浮かべてウェイトレスを呼ぶと、前と同じようにひそかにぼくのメッセージを向こうのブロンドに渡すようにことづけた。

ウィットニーは連れの野蛮人の視線を避けてメモをテーブルの上でひろげ、にこりと笑ってから、手の中のメモを腰かけのうしろに押し込んだ。商品市場の分析をしているのだか、電話帳を暗唱しているのだか、とにかく何であれ、連れの男がひとりでまくしたてている一方で、彼女は店内をぐるりと見まわした。ぼくにはデートの相手が、彼女を涙が出るほど退屈させていることがよくわかった。

「どうだ、見たかい」ぼくはバーテンダーに言った。「彼女はぼくに会いたがっているんだ。いったい誰がやっているのかわからないってことに、彼女はがまんできなくなっているのさ」

「誰のことを話しているんだい」隣のスツールに腰をかけた男がぼくに尋ねた。

「向こうのブロンドさ」ぼくは眼で彼女を指した。「彼女、入って来たときに、ぼくに合図を送ってきたんだ」

「すごくいかす女だ」と男は呟いた。

ぼくは自分がほめられたようにうれしくなり、別のナプキンを取りあげた。

「さて——」ぼくはバーテンダーや隣の男を充分意識しながら、おもむろにいった。「彼女をいらいらさせている男が、この店の中のどの男なのか、そろそろ彼女に教えてやろうか」

ところで、君には身なりのいい、ハンサムで裕福そうな男がこのバーの中にいるのがわかるかな。だが、それは残念ながらぼくじゃない。彼はぼくのボディーガードなのです。彼の左側にいるのが、ぼくです。理由はあとでお話しますが、ぼくは疑惑を避けるためにわざとこんな格好をしているのです。君と一緒にいる男はマフィアに雇われた殺し屋です。その男はぼくを追ってやって来たのです。やつの言うことを信用してはいけません。1分以内に、ぼくはドアの外に向かって歩き出します。君はそしらぬふりでぼくのあとについて来なさい。君の生命がかかっているんだ。殺し屋は、われわれが安全に逃げ出せるまで、ぼくのボディーガードが引き止めます。

友人より

今度は、ウィットニーは大声をあげて笑った。また彼女と一緒のマヌケが、何がそんなにおかしいのかと尋ね、彼女は前と同様に、なんでもないのだと答えている。

彼女がまっすぐこちらの方を見る。ぼくはこういう場面にそなえて、俳優がスクリーンから送って寄こすような頬笑みを用意していた。それこそ、とっておきの微笑だ。完璧にできたか、ちょっとばかり不安だったが、まあ、Dr.Jが華麗なシュートを決めるように着着とポイントを重ねたことは間違いない。

「彼女の注意をひいたようだね」隣の男がにんまりした。

「冗談じゃない」ぼくは肩をすくめる。「注意をひいたなんてものじゃないさ。彼女はぼくを必要としているのさ。ぼくの愛をね」

「なら、いますぐ向こうに行くことだね」とバーテンダーが言う。

「ただ、ちょっと問題があるんだ」ぼくは次の手を思いめぐらせながら言った。「つまり、こういうことだ。彼女と一緒にいる男が、もし金持ちの女房持ちだとしたら、ぼくたちがサントロペまで飛んで逃げるにあたって、やっこさんの金がちょうどいい軍資金になるってわけさ。ま、信じてくれ。ぼくは自分のすべきことはわかっているつもりさ」

バーテンダーがぼくにナプキンを寄こして、こう言った。

「さあ、次はどんなボールを投げるんだ、エース」

ぼくは彼にエースと呼ばれて、おおいに気をよくした。が、少しばかり心配でもあった。クソボールを投げてフォアボールを出したらみっともない。彼女に寄せるぼくの思いは本物なのだが、周囲の観客たちの手前、ぶざまにノックアウトをくらうわけにもいかず、そんな気持ちがぼくの愛をゲーム化させつつあるように思われて、なんとなく不快だったのだ。が、なりゆき上、仕方がない。ぼくはみんながあっと驚くようなボールを投げなければいけない。なんたって、エースなんだから。

そこで、ぼくは考えた。彼女にこう伝えることもできる。警官が二人、ぼくのところへやって来て、彼女と一緒の男がドラッグに関係しているが、彼女の方はどうなのかと、ぼくに尋ねた、ということにするのだ。ぼくはもちろん君の無実を信じているが、厄介なことにならないうちに、ぼくと逃げ出そうと誘うのだ。

謎めいた逃避行に出るという話ほど、女性にとって胸のときめくロマンチックなものは

Cocktail Napkin Message

ない。が、これはちとドラマチックすぎるか。そう思って、ぼくはこの話をボツにしたが、最小限シリアスな要素は必要だと考え、ナプキンにこんなふうに書いた。

冗談はさておいて、説明している時間はないのです。君と一緒の男の奥さんが、もうじきこの店にやって来るようです。本当です。もし修羅場に出くわすことを避けたいとお思いでしたら、クルマの中に何か忘れ物をしたフリでもして、すぐにここから立ち去りなさい。駐車場でおちあいましょう。もし必要でしたら、クルマで君の家までお送りします。

友人より

「どうだい」ぼくはまずバーテンダーにそれを見せた。

「胸もとをえぐる直球だね。完全に勝ちだよ」と彼は言った。

「それでいけ」隣の男がけしかけた。

今度はぼくのメッセージを読んで、ブロンドは眼を閉じ、そして頭を振った。暗くてなんとも言えないが、おそらく顔を赤らめているのだろう。それから、恥を知りなさいとでも言うようにぼくの方を見た。その通りだ。わかってるんだ、でも違うんだよ、と、ぼくは眼で彼女に語りかけた。冗談の限度はここまでだ。次は最終段階だ。

「確かに彼女はきみを気に入ってるな」隣の男がにやにやしながら意見をはさんだ。

「当然さ」ぼくは言った。「さてと、奥の手を出すとするか」

「何だね、それは」とバーテンダー。

「誠実ささ」ぼくは彼に片眼をつむって見せた。「ある人がローレンス・オリビエに訊いたそうだ。素晴らしい演技のひけつは何かってね。そこで彼はこう答えた。誠実であること、一度ごまかしをすると、残りはすべてオジャンになる」

ぼくは最後のメモを注意深く一字一句に気をつけて書くことにした。持てるワザを全部使って最高傑作をひねり出し、夜逃げ覚悟で、あり金全部を、そしてぼくの運命を賭けるのだ。世界国家の力のバランスも、その命運でさえも、今やまさにこのカクテル・ナプキンのメッセージにかかっているのだ。

親愛なるウィットニー様

本当にもう冗談はさておいて、ぼくはどうしても君と親しくなりたいのです。なぜなのかわかりませんが、君が店に入って来た瞬間から、ぼくは君に心を奪われたのです。この奇怪な冗談男の仮面の下には、ほんの少しでいいから君に自分のことを話したがっている素敵な男の顔が隠されているのです。ぼくはいまだかつて魔法の存在を信じたことがありません。だが、いまのぼくは君によってまさしく恋の魔法にかけられたのです。ぼくはどうしたらいいのでしょう。ぼくはすべてを君の手にゆだねるしか方法はないのです。

バーにいるトムより

この冒険によって得た新しい友人たちは、ぼくの最後のメモを見たがった。

「がっかりさせるようで申し訳ないけど、これはとても個人的な内容でね」と、ぼくは連中に言った。

率直すぎて気恥ずかしかったのだ。エースが相手の四番バッターをおそれて、敬遠策に出たようなもんだからね。

ふたたび、ぼくの心臓は高鳴った。この場面をもう少しドラマチックに演出すると、こんな具合だ。まずウェイトレスがぼくのメモを彼女のもとに運ぶと、今やぼくのドリームガールとの間の単なる粗大ゴミと化した連れの男は、何も知らずに立ちあがってタバコの販売機の方へ歩いて行った。ウィットニーはぼくのメッセージを熱心に読むと、品定めするような眼でぼくの方を見た。彼女が自分に重大な決断のときがやってきたと悟ったのは明白だった。

彼女はバッグの中からペンを取り出した。そして、カクテル・ナプキンに何事かさらさらと書きはじめたのだ。もはやこれ以上激しく鼓動できないと思えるほど心臓がどきどきしていた矢先のことだ。鼓動はたちまち倍になった。ウィットニーはぼくたちのメッセンジャーを手招きし、ぼくを指さしてメモを手渡した。ウェイトレスはそれを裏返しにして、ぼくの眼の前のマホガニーのテーブルの上に置いた。バーテンダーや隣の男が、ぼくの方に寄りかかる。

「ちょっといいかな」ぼくは平静を装って言った。「これはたいへんプライベートなものなんでね」

まるで農場をひとつ賭けていて、そして、それがぼくに残された最後のカードであるかのような思いで、ぼくはそのナプキンを取りあげた。ゆっくりと、一字一字、一語一語を少しずつ表にしていった。すべてがぼくの眼の前に現われた。それにはこう記されていたのだ。

本当に冗談はさておいて、バーにいるトム様

1. わたしが一緒にいる男性は、わたしの弟です。
2. あなたの隣にいる男性は、バーテンダーの弟です。
3. そのバーテンダーはわたしの夫です。
4. たぶん、あなたがすべきことはひとつだけ。早くここから出て行くことだけでしょう。

ウィットニー

「じゃあ、これで、諸君」ぼくはカウンターに10ドル札をぽんと置いた。「おつりはとっといてくれ」

「どこへ行くっていうんだい」とバーテンダーが訊いた。

その顔は相変らずニヒルな薄笑いを浮かべていて、表情の裏は読みとれない。が、心なしか前と違って嘲笑的だ。いや、気のせいさ。メモの中身は知らないんだから。

「ああ、彼女と会うことになったのさ」と、ぼくは答えた。「ぼくのカラテ道場でね。ぼくはカラテを教えてるんだ。それにペットのブルドッグをクルマに残したままなんでね。たぶん今ごろ死ぬほど退屈して、誰かを噛み殺したがっていると思うよ」

ぼくはゆっくりと、しかしできるだけ急いで、その場を立ち去った。1ブロックとその半分ほどは立ち止まらなかった。

はたして彼女の書いていたことは本当なのだろうか。それとも、ぼくは単にゲームに負けてしまったのだろうか。事実はひとつだけだ。

だが、ぼくは考えめぐらすことはやめにした。人生ってやつはあまりに短いし、それに貴重なものだから、いちいち思いわずらうべきじゃないというのがぼくの信条だからだ。

「損失(ロス)はそこまで」

ぼくはいつも自分にそう言っているのさ。

に軟らかい手応えで――、反り返ります――ぎりぎりまでひきしぼられた弓の弦のように――。でもわたしは決して許しません、攻撃の手を緩めません。わたしを――男たちを――こんな風にさせるのは彼女の所為なのですから。瞳を閉じ、四肢や躰を闇雲に動かしているうちに、やがてわたしは夢と現の違いがわからなくなってきます。時間の流れは堰き止められて、至るところで溢れ逆流しはじめます。息苦しくなったわたしがもがきながら躰を離すと、ずっと下の方から両の手が重力のように強くわたしを引っ張りました。攻撃しているのは本当にわたしなのでしょうか。ここではわたしと彼女を区別することはできません。わたしは――わたしたちは――手を携えて遥かに高く駆け上がっていきます。辺りを見回しても、暗く、水分をたっぷり含んだ嶺い雲の中にいるわたしにはもう何も見えないのです。

「天使」は完全に無防備なことで人間たちを――男たちを、わたしを――征服します。官能に閉じ籠められているのはわたしです。まっ逆様に堕ちてゆくのも、炙られるのも、蹂躙されるのも、皆わたしなのです。そして最期の瞬間、手や指や目や舌が、噛んでやった歯が、硬く尖った肉が、ぜんぶ無力になったわたしは、どこまでも薄明るく生温い空間に放り出されました。でもわたしは満足しています。そして、死んだようにぐったりと横たわったまま、まだ微かに躰の奥深いところで疼いていた何かが急激に消え去っていくのを感じながら、もう一度彼女の名前を呼んでみたのでした。

「人形」「彫像」そして「天使」と。

（高橋源一郎）

「お前が肉体で味わっている清らかなものは
それが何であれ、
わたしたちもまた、それを豊かに優美に味わ
っている。それを
邪魔する粘膜とか、関節、手足といった障害
物は何一つない」ミルトン

ここで、いまわたしが接しているのは狡猾な「天使」にちがいありません。いや、あるいはしおらしい「娼婦」なのかもしれません。それとも老練な「悪魔」なのでしょうか、禍禍しい「怪物」なのでしょうか。わたしは、神秘的なもの天上的なものから、口にだすことも憚られるおぞましく奇怪なものまで、ありふれたものどこにでもあるものから、想像できないものまだ生まれていないものに至るまで、ひとつひとつその名前を口にだしてみます。するとわたしには、ぴったりくっついている湿って熱いこの「天使」が、わたしが口にした名前のどれにでも当てはまるような気がしてくるのです。それは、大きく咽喉を震わせて——猛禽類のように——鳴いたかと思うと、唇をぎゅっと噛んで声をおし殺します。頭を盲滅法振り回すたびに——野生の肉食獣のように——髪がふんわりとシーツの上にひろがり——揺らめく海草のように——そして、開きます——大輪の花のように——。もちあげます——未来の機械のレバーのよう

CHAPTER 3

男たちの愛するもの——その三
「天使」について

ベッドの中に熱い肉体が軽やかに滑り込んできた
Joan Bennett
ジョアン・ベネット

「ダーリン」言いかけた彼女の唇をぼくの唇がふさぐ

Donna Smith

ドナ・スミス

Jeep

「待って」ちいさい声で彼女が呟く。「いいって言うまでこっちを見ないで」

Susie Scott
スーシー・スコット

Roberta Vasquez
ロバータ・ヴァスケス
服を脱ぐ彼女のたてる音だけが微かに部屋に響いた

210
200

Kim Evenson

キム・イーブンソン

Venice Kong ヴェニス・コング

Carina Persson カリーナ・パーソン

Tricia Lange
トリシア・ラング

Cherie Witter
シェリー・ウィッター

Cher Butler
シェール・バトラー

Veronica Gamba

ヴェロニカ・ガンバ

スージー・ショット

Suzi Schott

Roberta Vasquez
ロバータ・ヴァスケス

1963年ロサンゼルス生まれ。好きなものは、優しいキス、強い身体、タイ料理。趣味は出歩くこと、良い本を読むこと。望みは「40歳になってもすばらしい身体を保っていることと、人生を楽しむこと」。1メートルのバストは全男性のSEXシンボル。Bust100 Waist62 Hips 85 身長185㎝体重61㎏

Joan Bennett
ジョアン・ベネット

1964年シカゴ生まれ。ジョアンは一生懸命に生きて自分がなしとげたことを誇りに思えるようになりたいと願っている知的でチャーミングな女性。ジョージ・オーウェルの作品の愛読者。芸術性のある知性的で情熱的な、髪の長い男性が理想だ。Bust90 Waist60 Hips 88 身長172㎝体重53㎏

Kim Evenson
キム・イーブンソン

1962年西ドイツ生まれ。最近サーフィンに夢中。フットボール、サッカー、水泳、登山も好きなスポーツ。彼女の夢は「スクリーン史上最大のスターになること」。キュートな男性、ロックンロール、冒険、自然、速いクルマ、それが彼女の好きなもの。Bust90 Waist62 Hips 88 身長172㎝体重47㎏

Donna Smith
ドナ・スミス

1960年オレゴン州生まれ。ドナの望みは、歌手になること。水泳、乗馬が得意なスポーツ・ウーマン。人に傷つけられることや嫉妬深い人、所有欲の強い人が嫌い。それに煙草の煙があふれている場所が大嫌い。日光浴が好き。秘密の夢は、教えない。Bust92 Waist60 Hips 87 身長167㎝体重47㎏

Venice Kong
ヴェニス・コング

1961年ジャマイカ生まれ。「他の人たちがやろうとしていることをできるだけ手伝って生きたいわ」。彼女はひかえめな女性。だが、考えのまとまらない消極的な人たちは大嫌い。知的で愉快で正直で繊細で、それに犬を愛する成功した男性が理想。Bust85 Waist60 Hips 85 身長163㎝体重47㎏

Susie Scott
スージー・スコット

1963年カリフォルニア州生まれ。「年をとっても美しくありたいわ」と言うスージーは、恋をして結婚をして子供を産むことが最大の幸せだと思っている家庭的な女の子だ。心の痛むことが嫌いだと言う彼女はとても繊細な感受性の持ち主でもある。Bust85 Waist58 Hips 89 身長168㎝体重49㎏

PLAYMATES' FILE

Cher Butler
シェール・バトラー

1964年テキサス生まれ。左ききの男が好きだと言うシェールはなかなか知的な女性。なぜプレイメイトになりたいと思ったのかという質問に対して「恋人たちの希望にこたえるためと、自分の顔をおかしいと思い込んでいた昔のあたしのために」
Bust92 Waist60 Hips 87 身長167㎝体重57㎏

Carina Persson
カリーナ・パーソン

1958年スウェーデン生まれ。北欧の女性らしい青い眼と白い肌のカリーナ。愛すべき目的をはっきりもった人間になり、世の中の役に立つようなことをするのが彼女の夢。アシモフ、ソロー、トールキンが好きな作家。無知と残酷と退屈が大嫌い。
Bust86 Waist61 Hips 86 身長160㎝体重45㎏

Veronica Gamba
ヴェロニカ・ガンバ

1963年アルゼンチン生まれ。「あたしは気まぐれなのよ。でも気にしてないわ。まだ当分結婚することはないと思う。だっていまは仕事の方が大切ですもの」。彼女の夢はアカデミー主演女優賞をとること。嫌いなものは列に並ぶこと、それにリマ豆。
Bust85 Waist55 Hips 85 身長173㎝体重51㎏

Tricia Lange
トリシア・ラング

1957年カリフォルニア州生まれ。「あたしの好きなものは、めくばせ、ほほえみ、知的な頭脳、ロックンロール、速いクルマ。嫌いなものは、交通渋滞、スモッグ、無神経でふまじめな人。理想の男性は、感受性にあふれた知的でまじめな楽しい人ね」
Bust90 Waist55 Hips 85 身長168㎝体重49㎏

Suzi Schott
スージー・ショット

1961年イリノイ州生まれ。スージーの望みは、結婚して家中いっぱいの子供を育てること。好きな映画は『パピヨン』『シャイニング』。湖のほとりの静かな場所が好きだから、結婚したら愛する夫とそういう場所に住みたいというのがスージーの夢。
Bust90 Waist60 Hips 90 身長180㎝体重51㎏

Cherie Witter
シェリー・ウィッター

1963年ワシントン州生まれ。最大のよろこびは、ほほえむ人たちを見ることだと言うシェリー。「ものごとを決めつける人は嫌いね。それに、葉巻、クルマの混雑、プレッシャーの大きい環境、押しつけがましい人が大嫌い。好きな場所はアラスカ」
Bust85 Waist58 Hips 85 身長173㎝体重53㎏

PLAYMATES' FILE

PLAYBOY日本版特別編集
PLAYMATES BEST SELECTION
プレイメイト・ベスト・セレクション

昭和61年5月10日　第1刷発行
編集人　広谷直路
発行人　中野祐介
発行所　株式会社　集英社
〒101 東京都千代田区一ツ橋2－5－10
電話 03・230・6130（編集）
03・230・6161（販売）
印刷所　凸版印刷株式会社
乱丁・落丁本はお取替えいたします。
定価　1200円
©Shueisha 1986 Printed in Japan
雑誌07718－5
本誌掲載の写真、記事の無断転載複写を禁ず。